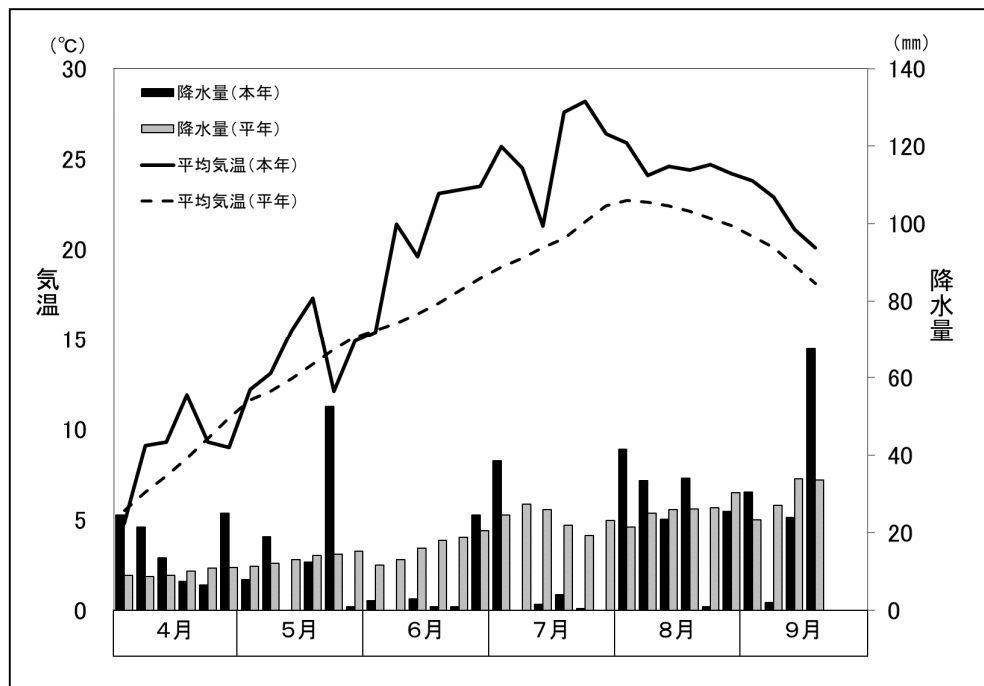


上北農業生産情報 第6号

令和7年9月25日
青森県上北農林水産事務所

- まだ収穫していない水田では、品質低下を防ぐため出来るだけ早く刈り終えましょう！
- 台風や大雨に備え、明きょ等の排水対策を徹底しましょう！
- 農作業の安全に努めましょう！

気 象



半旬別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）

【8月】

- ・平均気温と日照時間は、期間を通して平年を上回った。
- ・降水量は、上・中旬は平年を上回り、下旬は平年を下回った。

【8月の気象（十和田アメダス）】

項 目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上 旬	25.0	22.8	29.9	27.5	21.3	19.0	56.1	53.3	75.0	48.9
中 旬	24.5	22.2	30.3	26.6	19.3	18.6	75.1	45.8	57.5	47.4
下 旬	24.4	21.5	29.7	26.1	19.6	17.5	79.9	51.2	26.5	63.0

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計(下旬は11日間の平均・合計)

【9月上中旬】

- ・平均気温は、平年を上回った。
- ・日照時間は、上旬は平年並で、中旬は平年を上回った。
- ・降水量は、上旬は平年を下回り、中旬は平年を上回った。

【9月上中旬の気象（十和田アメダス）】

項 目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上 旬	23.3	20.6	28.0	25.5	18.8	16.5	43.8	44.9	32.5	41.1
中 旬	20.6	18.7	26.1	23.7	15.2	14.2	57.9	46.6	91.5	77.6

注）気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

東北地方 1か月予報（9月26日から10月25日までの天候見通し）

令和7年9月25日 仙台管区气象台 発表

- 全国的に、向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- 降水量は、少ない確率40%です。

水 稲

《刈取作業》

- 1 夏季高温年であった今年は、管内の水田は概ね刈取適期に達している。
胴割粒や茶米等の品質低下を防ぐため、まだ収穫していない水田は、出来るだけ早く刈り終えるようにする。
- 2 倒伏により品質の低下が予想される場合は、倒伏部分を別刈りする。

【刈取進捗状況】

市 町 村	水稻 作付面積 (ha)	刈取進捗	
		始 め (月／日)	最盛期 (月／日)
十和田市	3,170	9月15日	
七戸町	1,610	9月15日	
東北町	1,230	9月15日	
野辺地町	23	9月7日	9月15日
横浜町	144	9月17日	

市 町 村	水稻 作付面積 (ha)	刈取進捗	
		始 め (月／日)	最盛期 (月／日)
三沢市	215	9月19日	
六戸町	699	9月10日	
おいらせ町	521	9月12日	
六ヶ所村	22	9月7日	9月19日
管内（計）	7,634	9月15日	

注）9月20日現在。管内では、一部町村で刈取最盛期を迎えている。

《今後の主な作業》

- 1 粳の乾燥は水分15.0%を目標とし、適正に調整する。
登熟ムラによる高水分粳や未熟な粳の混入が多い場合は、粳水分18%程度で一旦乾燥を中断し、最低5～6時間貯留してから仕上げ乾燥を行う二段乾燥など、水分ムラに配慮した乾燥に努める。
- 2 稲わらは、家畜の飼料や堆肥等に有効活用する。なお、秋にすき込む場合は、地温が低くなると腐熟が遅れるのでできるだけ早めに行う。

大豆

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、草丈は平年よりかなり長く、着莢数は平年より少なかった。
- 2 生育旺盛な一部のほ場で、倒伏がみられる。

【生育観測ほの生育状況(品種：おおすず)】

調査地	年次	9月10日現在	
		草丈 (cm)	着莢数(莢/本)
十和田市切田	本年	117.7	28.7
	平年	98.1	30.8
	前年	90.8	35.4

注1) 平年値は平成22年～6年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 台風や大雨に備え、滞水しないよう明きょ等の補修を行う。
- 2 ほ場内の青立ち株や大型雑草は汚粒発生の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。
- 3 コンバインによる収穫適期は、子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時期である。収穫適期に達したら速やかに作業できるよう、早めにコンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- 4 培土高のムラが大きいほ場や、倒伏したほ場では、土かみによる汚損粒の発生を防ぐため、刈取りの高さに注意する。

小麦

《今後1か月間の主な作業》

- 1 耕起・砕土は出芽、苗立ちの確保に関わる作業のため、丁寧に行う。
- 2 湿害を防止するため、明きょの設置など排水対策を徹底する。
- 3 種子伝染性病害の防除のため、種子消毒を徹底する。
- 4 は種作業は、越冬前の生育量を確保するため9月末を目処に終える。
- 5 条播のは種量は、9月末までは10a当たり6～8kgとするが、10月になる場合は2kg程度増量する。

ながいも

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、いも長、いも重ともに平年を大幅に上回っており、いも径は平年並みとなっている。
- 2 一般ほ場においても、気温が高く降雨も適度にあつたことから、おおむね順調に生育している。
- 3 葉渋病の発生が見られ、ナガイモコガ、コガネムシ類及びハダニの食害も見られている。

【生育観測ほの生育状況(種いも：庄司系2年子芽付き)】

調査地	年次	植付日 (月/日)	萌芽揃期 (月/日)	つるのネット 頂到達日 (月/日)	9月10日現在		
					いも長 (cm)	いも径 (mm)	いも重 (g)
東北町滝沢平	本年	5/14	6/ 8	7/ 1	75.5	52.2	1,128
	平年	5/ 8	6/ 5	7/ 7	65.7	52.2	805
	前年	5/11	5/29	6/29	86.1	56.9	1,113

注) 平年値は平成27年～令和6年の平均値、本年の調査日は9月10日

《今後1か月間の主な作業》

- 1 台風等に備えるため、ネットや支柱の補強や明きょ等の排水対策を行う。
- 2 葉渋病、炭そ病を主体とした防除を行う。
- 3 秋期もウィルスに感染するので、採種ほ場はアブラムシ類の防除を徹底し、発病株は早めに抜き取る。

にんにく

《今後1か月間の主な作業》

1 ほ場の準備と施肥

- ア 黒腐菌核病、イモグサレセンチュウ等の土壌病害虫が発生していない、水はけの良いほ場を選ぶ。なお、水はけの悪いほ場に植え付けざるを得ない場合は、明きょや深耕など事前の排水対策を徹底する。
- イ 土壌改良資材や堆肥は、土壌診断結果に基づいて施用量を決める。
- ウ 基肥は、窒素成分で10a当たり25kgを目安とする。

2 種子の準備

- ア イモグサレセンチュウの被害拡大防止のため、種苗として正規の管理・チェックを経ていない種子は絶対に使用しない。
- イ 種子用の球は病害虫の被害や腐敗がなく、形状の整った一球5～6片のものから選ぶ。
- ウ 種子りん片はできるだけ大きさを揃えて選別する。りん片重10～15gを基準とし、大きさ別に大中小3段階程度に分別するとよい。
- エ ネギアザミウマ及びチューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・種子りん片の選別後は速やかに消毒・風乾して植え付ける。

3 植え付け

- ア 越冬前の葉数が3～4枚となるような植付時期を選択し、作業工程を調整する。昨今の高温気象を鑑み、植付時期は「10月上旬～下旬」を目安とする。
- イ 植え付ける深さは7～8cm程度とする。
- ウ 植付機の場合、種子りん片が斜めや逆さまに、また浅植えにならないように、植え付け速度などに注意を払う。

露地ねぎ

《生育状況》

- 1 肥大は概ね順調に進んでおり、適宜収穫作業が行われている。
- 2 病害は斑点性病害、さび病、軟腐病の発生が見られており、虫害ではアザミウマ類の食害が見られている。

《今後1か月間の主な作業》

- 1 斑点性病害、べと病、さび病、ネギアザミウマ等を主体とした防除を行う。
- 2 軟白長 30cm 以上を確保し、適期収穫に努める。

秋だいこん(10月収穫)

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、発芽後の気温は高く推移し、適度な降水により、地上部地下部ともに生育は平年を大幅に上回っている。
- 2 7月下旬～8月上旬には種されたものは、生育はおおむね良好である。病害虫は、一部でアブラムシ類の被害が見られる。

【生育観測ほの生育状況(品種：S-139)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	9月10日現在		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
東北町乙部	本年	8/11	35.0	19.9	117.6
	平年	8/6	30.0	14.2	62.3
	前年	8/8	27.8	12.5	42.7

注) 平年値は平成26年～令和6年の平均値

注) 令和4年に担当農家を変更したため、平年は参考値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 白さび病(わっか症)、アブラムシ類、コナガ等を主体とした防除を行う。
- 2 収穫は、L規格(1～1.2kg)を中心に、肥大状況を確認し適期に行う。

ごぼう

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、草丈、葉数がともに平年をかなり上回っている。
病害虫は、うどんこ病が見られる。生育に影響のない程度であるが、病害虫被害が散見されている。
- 2 一般ほ場において、生育は概ね順調である。8月19日頃から収穫が始まった。
- 3 5月下旬から6月にかけては種したほ場では、7月の乾燥により発芽不良、その後8月以降生育ムラが見られる。

【生育観測ほの生育状況(品種：柳川理想)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	9月10日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/14	119.5	4.0
	平年	5/2	97.8	3.4
	前年	5/16	106.3	3.1

注) 平年値は平成27年～令和6年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

試し掘りで根部の肥大状況を確認し、適期に収穫する。

りんご

《生育状況》

- 1 生育観測ほの「ふじ」の9月11日現在における果実肥大（横径）は7.6cmで、平年比96%、前年比92%となっている。
- 2 黒石市（りんご研究所）における果実肥大（横径）は7.6cmで、平年比95%、前年比94%となっている。

【生育観測ほの生育状況（品種：ふじ）】

調査地	9月11日現在の果実肥大（横径）				
	本年（cm）	平年（cm）	平年比（%）	前年（cm）	前年比（%）
十和田市米田	7.6	7.9	96	8.2	92

注）平年値は平成28年～令和6年の9か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 中・晩生種の着色手入れ
早くからの強い葉摘みは品質低下を招くので行わない。ある程度着色した頃から始め、収穫までに2回程度に分けて行う。
- 2 中生種の収穫
ア 自園の果実の状況を確認し、早もぎせず、味をのせた上で適期に収穫する。
イ 黒石市（りんご研究所）における「トキ」の収穫始めは9月30日頃の見込み。
「トキ」は熟期が揃いにくいので、3回程度に分けてすぐりもぎを行う。「早生ふじ」は、地色を見て2回くらいに分けて収穫する。
- 3 風害防止対策
台風に備え、防風網の点検・補修や、幼木、わい性台樹の支柱の補強など風害防止対策をしっかりと行う。
- 4 山選果の徹底
シンクイムシ類の被害果を流通させないために、がくあ部付近の食入痕や滴の痕を見逃さないように注意し、徹底して選別する。

牧 草

《生育状況》

- 1 生育観測ほは、平年より1日早い9月12日に3番草を収穫し、10a当たり乾物収量は224kgで平年比121%だった。

【生育観測ほの生育状況（オーチャードグラス主体）】

調査地	年次	刈取日 （月/日）	草丈 （cm）	乾物収量 （kg/10a）
十和田市米田	本年	9/12	87.7	224
	平年	9/13	78.6	185
	前年	9/11	65.7	154

注）平年値は平成27年～令和6年の10か年平均値

《今後 1 か月間の主な作業》

- 1 3 番草の刈取
オーチャードグラス 3 番草の刈取りは、10 月上旬には終わらせる。
- 2 雑草防除
ギシギシ等の雑草の発生が多いほ場では、除草剤を散布する。
- 3 土壌改良資材等の散布
3 番草の刈取り後に、土壌改良資材や堆肥の散布を行う。

飼料用とうもろこし

《作柄状況》

生育観測ほの刈取は平年より 12 日早い 9 月 10 日で、生収量は平年比 142% の 6,610kg/10a、乾物収量は平年比 159% の 2,409kg/10a、TDN 収量は平年比 156% の 1,733kg/10a であった。

【生育観測ほの作柄状況（品種：スノーデント 110 日）】

調査地	年次	刈取月日 (月/日)	熟 期	生収量 (kg/10a)	乾物収量 (kg/10a)	TDN 収量 (kg/10a)
東北町北栄	本年	9/10	黄熟中期	6,610	2,409	1,733
	平年	9/22	—	4,640	1,514	1,111
	前年	9/10	湖熟後期	7,080	1,918	1,311

注) 平年値は、平成 30 年～令和 6 年の 7 か年平均値

《今後 1 か月間の主な作業》

- 1 ほ場ごとの刈取適期を確認しながら、計画的に刈取りを進める。
- 2 台風等による倒伏・折損が発生した場合は、速やかに刈り取る。